

豊岡演劇祭

演劇祭ってどんなもの？

「演劇のまち・豊岡」の推進策の一環として、5月7日に豊岡演劇祭実行委員会が設立され、来年度の本格実施に向け、第0回豊岡演劇祭が開催されることになりました。演劇祭とはどんなものか、市民にはどんな影響があるのか、フェスティバルディレクターの平田オリザさんに話を聞きました。

《問合せ》大交流課 ☎ 21-9081



平田オリザさん

世界的に活躍する劇作家・演出家。劇団「青年団」主宰。大阪大学特任教授、豊岡市芸術文化参与、城崎国際アートセンター芸術監督、但馬地域専門職大学設立準備委員会委員長などに就任。2017年、本市への移住と青年団の移転を発表

演劇祭ってどんなもの

例えば世界最大の演劇祭であるフランスのアビニオン演劇祭では、1カ月に千くらい演目があつて、世界中から劇団やダンスカンパニー、大道芸人などが集まってきました。その期間中、空き家や空き店舗、納屋、教会などが劇場になって、朝の9時から夜の11時くらいまで、3時間交代くらいで上演されます。上演を見た有力ブロガーなどがインターネットにブログを書く、それが評判になり評論家が見に来て、評論家が気に入ると新聞の評論に載って、例えば僕の作品がアビニオンで上演されたときは、翌日ルモンド(フランスの代表的な新聞)の一面に載りました。そういうふうにならざるに社会的な話題になっていきます。

するとその作品は翌年に世界中のフェスティバルに買い取られていく。演劇祭は、そういう見本市のような役割も果たしています。

世界中から若い芸術家が集まり、世界中からプロデューサーが集まってくるような演劇祭を作りたい。10年後には世界クラスの演劇祭にしたいと考えています。

なぜ、豊岡なの

国際演劇祭にはいくつか成功の条件があります。まず、あまり大きな都市ではないこと。アビニオンは9万人のまちです。ある程度狭い地域で、一定期間内にたくさん演目を上演して、それを見て回るといのが国際演劇祭の基本的な考え方です。

日本でも美術では瀬戸内国際芸術祭のように回遊型の、地域でいろんな作品を見て回るといのが一般的になってきました。日本でこの形の演劇祭が成功した例はあまりありません。唯一、富山県の利賀村の演劇祭が成功はして

いますが、宿泊施設がほとんどなく、どうしても遠くに宿泊することになります。

国際演劇祭が成功する条件は他にもあり、まず上演施設が整っていること、それから受入れの宿泊施設がたくさんあること、演劇祭自体が世界的なコネクション(有益に利用できるつながり)を持っていること。

豊岡はすでにこの三つの条件を全て満たしています。城崎温泉、神鍋高原には多くの宿泊施設があります。演劇祭は9月なので、比較的空いた時期かと思えます。また、非常に魅力的な出石永楽館、城崎国際アートセンター(KIAC)、建設予定の江原河畔劇場、そういった個性豊かな劇場群を持っているということ。

それから、KIACのこれまでの実績と、僕も来ますので、世界的なコネクションをすでに持っているということ。国際的な演劇祭を成功させる条件が日本で最も整ったまちだと思っています。

楽しみ方は

本当にいろいろな演目をその期間中見ることができません。子ども向けのものとか、大道芸的なものとか、たくさんの中から選べるというのが魅力なので、好きなものを選んで楽しんでもらえればと思います。それから、河畔劇場近くにフェスティバルカフェとあって、世界中から集まったアーティストと観客が交流できる、屋台村のような場所を作りたいと思っています。

地域への影響は

空き家、空き店舗を演劇祭の期間中試験的に使わせてもらうことによって、いろいろな可能性を見つけてもらうことができます。演劇祭期間中だけにぎわっていても仕方ないので、使うことによって今度は地域の方たちがアイデアを出せるようにしていくということが大きな狙いです。

もう一つは、演劇祭期間中に使える地域通貨を考えています。全国からボランティア

も集まってきましたから、その有償ボランティアへの支払いを全部、地域通貨にする。だから、ボランティアに支払うお金は地元で落ちる。また、芝居を観るのも地域通貨で支払う。そのことによって地域の経済に大きく寄与したい。実験的に演劇祭の期間中にやることによって、地域通貨の可能性を試して、いずれ通年で使えるようなものに発展していけば良いと思います。これは、企業といろいろな研究が始まっているところ

です。それから、10年後くらいがちょうど過渡期かと思っていますが、車は自動運転になっていくと思います。自動運転のバスで永楽館、K I A C、河畔劇場などの拠点間を結ぶことも考えています。

2週間から3週間の演劇祭期間だと、いろいろな実験がしやすいと思います。行政も企業もデータが取りやすい。それが最終的に市の経済活動とか市民に還元されていくような仕組みを、演劇祭の中で考えていきたいと思っています。

第0回豊岡演劇祭

会期 9月6日(金)～8日(日)
会場 城崎国際アートセンター
出石永楽館



▲劇団 柿喰う客 作品『美少年』 撮影：神ノ川智早



▲劇団 青年団 作品『東京ノート』—日中韓俳優出演・3カ国語版—(2010) 撮影：青木 司
※24ページに関連記事

▼チケット取扱い

▽城崎国際アートセンター[窓口販売]

☎32-3888(午前9時～午後5時 火曜定休)

▽出石永楽館[窓口販売]

☎52-5300(午前9時30分～午後5時 木曜定休)

▽豊岡市民プラザ[窓口販売]

☎24-3000(午前9時～午後5時 火曜定休)

▽日高地区コミュニティセンター[窓口販売]

☎42-2023(午前9時～午後5時 火曜定休)

▽青年団

☎03-3469-9107(正午～午後8時)

ウェブサイト <http://www.seinendan.org>
(オンライン販売あり)

▼託児サービス

希望する方は、8月30日(金)までに演劇祭実行委員会事務局(☎21-9081)に申し込んでください。(対象：満1歳～就学前の子)

※演目、チケット料金等の詳細については、全戸配布している「第0回豊岡演劇祭リーフレット」やウェブサイトを確認してください。
<https://toyooka-theaterfestival.tumblr.com/>

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~23

豊岡 クローズアップ

24~31

くらしの情報

32~33

保健行事

34~35

図書館 つどいの広場

36~37

主な行事